

校長の話

校長 上村 哲也

日本で暮らす外国籍の人たちと

ここ数日は曇りがちの日が増え、また、暑い日も多くなってきました。梅雨の訪れを感じます。これからはコロナに加えて熱中症への備えが必要になってきます。体調に気を配り、元気に過ごして欲しいと思います。

さて、昨年度3月の朝会で、ロシアがウクライナという国へ攻撃を始めたという話をしました。校長室前にはその時の資料が掲示してありますので、覚えている人もいます。

この写真に見覚えがありますか。ウクライナから隣のポーランドへ逃げ出した人たちの写真です。遠く日本に来た人たちも増えています。5月28日までの間に1, 134人がやってきました。

こちらは、図書室にある朝日小学生新聞の一面です。見出しには「戦火逃れ日本へ 心休まる日本人学校」と書いてあります。ジプロフカスさん(11歳)のご家族は、お母さんの友だちを頼って日本にやってきたそうです。日本ウクライナ友好協会という団体のサポートを受けながら暮らしている様子が書いてあります。ぜひ読んでみてください。

群馬県の桐生市にもウクライナからやってきた人たちが暮らしています。清流中学校では、3人が学校に通い、日本語と英語の学習に参加しています。アナスタシアさんは「先生が分かりやすく教えてくれた。」と話しています。

館林市では、これまでにウクライナの方は来ていませんが、その時に備え、募金活動を行っています。家や食べ物の支援も用意されています。

このように、今、ウクライナからやってくる人たちに高い関心が寄せられ、日本各地でいろいろなサポートが広がっています。日本をよい国だと思い頼って来た人たちに平和な暮らしが訪れるようお願いばかりです。

ところで、今日は、日本で暮らす外国から来たすべての人たちに目を向けてみたいと思います。一体どれくらいの外国籍の人たちがいるのでしょうか？

一番新しいデータによると、288万5,904人もの外国籍の人たちが日本で暮らしています。館林市の人口が7万4,500人くらいですから、館林市の39倍くらいの人ということになります。自分が生まれ育った国での争いごとから逃れてきた人たちもいま



すが、一番多いのは日本で働くことを目的として来てくれた人たちです。日本の文化や自然、平和、安全で安心な国、礼儀正しく親切な国民性などといった理由で、自分から望んで日本に来てくれた人たちも大勢います。

では、群馬県にはどれくらいの外国籍の人が暮らしているのでしょうか？

昨年のデータでは60,749人の人が暮らしています。これは群馬県の人口の3.1%にあたります。どの国から来たのか国別でみると、①ブラジル ②ベトナム ③フィリピン ④中国 ⑤ペルー の順となっています。

次に、市町村別に見ていきます。①伊勢崎市 ②太田市 ③大泉町 ④前橋市 ⑤高崎市 ⑥館林市 の順となっています。

私たちが住むこのあたりを、群馬県の東毛地域といいます。群馬県の中で最も多くの外国籍の人たちが暮らしている地域とすることができます。

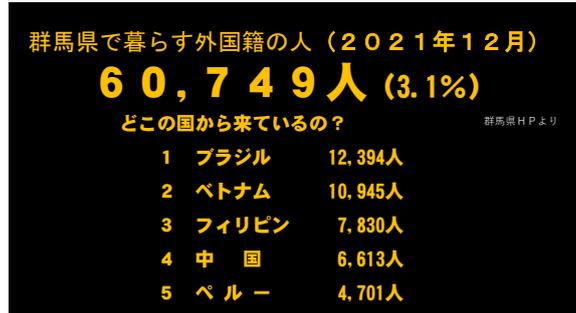
そして、館林市では、2,839人の人が暮らしていて、昨年より42人増えています。これは、館林市の人口の約3.8%にあたります。

また、館林市の小学校では140人、中学校では41人の外国籍の友だちが学んでいて、第十小学校と第三中学校には日本語を学ぶための教室が開かれています。

この写真を見てください。楽しそうに笑顔で写っているのは「館林市国際交流協会」の皆さんです。外国籍の皆さんを気持ちよく受け入れようとしている団体です。平成9年に作られ、25年間も活動を続けています。みんなでイベントを楽しんだり、日本語の勉強会を開いたりしながら交流し、暮らしのサポートをしています。

私たちの身近なところにも沢山の外国籍の方が暮らしています。お互いを大切にして、気持ちが通い合い、みんなが幸せに暮らせるよう努めていきましょう。

最後に、ある中学生が書いた作文の一部を紹介します。この作文は、総務省という国の機関による人権作文コンテストで入賞した、横浜市の中学校に通う林 楊洋（りん やんやん）さんが書いた作文です。



真の国際化に向けて

私は小学校六年生の時、中国から日本へやってきました。はじめは日本語が全く分からず、とても困りました。六年生の始業式では先生たちの話の意味が全然理解できなくて、黙って立っている自分がとても嫌でした。その後、国際交流ラウンジや日本語教室などで勉強して、少しずつ分かるようになってきました。

半年ぐらい経って、ある程度日本語が理解できるようになった時、理科でレポートを書く授業がありました。実験の後に考察やまとめなどを書く課題でしたが、「あなたは、やらなくてもいいよ。」と先生や友人に言われました。

きっとまだ日本語に慣れていない私を気遣ってくれたのだと思います。私は嬉しいはずなのに、なぜか周りの人との距離感を感じてしまいました。その時から、私はみんなとの違いに気づかされました。その後も周りの人たちはいろいろと配慮してくれました。漢字テストの時、私だけは漢字ではなく平仮名を書く。国語テストの時、私は読書する。こんな時、私は中国に帰りたかったし、昔に戻りたい気持ちになりました。

その頃、周りの人たちは私に対する優しさでそのように接してくれたのだと思います。その優しさのおかげで私は日本に慣れ、理解していくことができました。でも、私は外国人として特別扱いをしてほしくなかったのです。たとえ日本語が分からなくても、家に帰ってからネットや辞書で調べることができます。最初は、できなくても、教えてもらえれば、みんなと同じように仕事や勉強ができるようになるかもしれません。それでもできなかったなら、区別をしても納得することができます。日本人と同じようにやることによって外国人も早く日本になじむことができるでしょうし、日本人も外国人の考え方や習慣を理解することができると思います。

私は日本にきて外国人という立場になりました。でも、別の時に逆の立場を経験したことがあります。小学校三年生の時、成績のあまりよくない男の子がいて、私は軽く見ていました。その時、私はただ単にその男の子のことを、あまり言葉を喋らないだけかと思っていました。しかし、彼から「自分の両親は中国人とアメリカ人で、去年初めて中国に来たばかりだ。だから、まだ中国語がよくわからなくて、テストの点数なども悪いんだ。」と言われました。

その時、その子は私にとって外国人でした。その頃の私は、彼をまるでアメリカの代表のように、「アメリカ人は何が好きなのか。」「何が嫌いなのか。」「アメリカ人はどう考えているのか。」というような質問ばかりをしていました。その時彼は「俺はアメリカ人の代表じゃないから。同じ国籍でも、みんな同じ考えや性格なわけではない。」と言っていました。その時はちょっとびっくりしましたが、今ではよく理解できます。

彼のことを外国人としてみていた私が、今度は日本のみんなにとって外国人になりました。みんなから中国の代表と見られて、中国のことを聞かれたり、質問されたりしました。中国人という人がいる訳ではない、アメリカ人という人がいる訳でもない、一人一人の人間がいるだけなのです。これからの時代はますます国際化が進むと思います。あなたがいつ異文化の中に入り、外国人という立場になるか分かりません。私が考える真の国際理解とは、外国人を特別扱いしないで、異文化を理解し、その人が本当に困っていることに寄

り添い、手助けしてあげること、同じ人間、同じ立場で生きていく者同士として協力し合うことだと思います。そうする事の積み重ねが真の国際理解につながると思っています。
※グレーの網掛け部分を紹介しました。

これから益々多くの方が日本にやって来るでしょう。反対に、外国で暮らす日本人も多くなるでしょう。林さんの言葉を聞いて、みなさんはどんなことを思ったでしょうか。

※朝会では、数値データや写真資料などを提示しながら話しました。

